

## 領家変成帯柳井地域に産出する電気石泥質変成岩を用いた古応力解析：三波川変成帯紅簾石片岩古応力解析結果との比較

### Microboudin method for palaeostress analysis of tourmaline-bearing pelitic rock from the Ryoike metamorphic belt

# 木村 希生 [1]; 森 英樹 [2]; 奥平 敬元 [3]; 岡本 敦 [4]; 別府 裕樹 [3]; 福井 亜希子 [5]; 増田 俊明 [6]

# Nozomi Kimura[1]; Hideki Mori[2]; Takamoto Okudaira[3]; Atsushi Okamoto[4]; Yuki Beppu[3]; Akiko Fukui[5]; toshiaki masuda[6]

[1] 静大・理・地球科学; [2] 静大・理; [3] 阪市大・院理・地球; [4] 東北大、環境; [5] 静大・理工・生地環; [6] 静大・理・地球科学

[1] Institute of Geosciences at Shizuoka University; [2] Inst. Geos. Shizuoka Univ.; [3] Dept. Geosci., Osaka City Univ.; [4] Tohoku Univ.; [5] Inst. Geos. Shizuoka Univ.; [6] Inst. Geosci., Shizuoka Univ.

領家変成帯柳井地域に産出する泥質変成岩中に電気石のマイクロブーディン構造を発見し、マイクロブーディン法を用いて岩石が記録する古応力絶対値を解析した。領家変成帯の岩石を用いたマイクロブーディン古応力解析は本研究が初めてである。結果は 30 MPa と見積もられた。微細構造観察では、電気石の鉱物線構造は視覚的に発達していません、また石英質片岩中（先の古応力解析に用いた泥質変成岩の採取場所から 5 m 以内の露頭で採取したものである）の石英組織はイレギュラータイプ（二次再結晶）であった。

本研究の古応力解析結果・微細構造観察結果は、三波川変成帯に産出する紅簾石片岩の結果とは明確に異なる。著者は以前の研究で、三波川変成帯の複数地域においてマイクロブーディン古応力解析を行っており、例えば、四国汗見川流域では 50 MPa、四国銅山川流域では 100 MPa、紀伊四邑川流域では 200 MPa という解析結果が出ている。また、三波川変成帯の鉱物線構造は視覚的によく発達しており、石英組織は細長く引き伸ばされて亜粒界が発達した動的再結晶タイプであった。

領家・三波川両変成帯の古応力解析・微細構造観察結果の違いは、三波川変成帯と比べて領家変成帯の方が相対的に低い差応力で変形したことを示唆している。